第 2016-16 号

恵みと真理のニュース

2016 年 4 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]　イエスキリストを信じる信仰で全ての苦難を克服するようにしてくださり、教会を仕えるように導かれた神様の恵みと愛に感謝します

不信者だった私はイエス様を信じない旦那と結婚し子供を産んで生活する時1987年に恵と真理教会の区域長から伝道されイエス様を受け入れました。その後、区域礼拝から全ての礼拝まで参席して恵みある説教を聴いて信仰が成長しました。私の魂が生まれ変わって天国の希望を持って生きるように導いてくださった神様の恵みに感謝し熱心に信仰生活をしました。神様は私に区域長の職分をくださって教会学校で子供を教え見守る使命も与えてくださいました。足りない私にこのような尊い職分を与えたこと感謝する心で熱心に奉仕しました。

そうするうちに急にリプレッションで旦那が通っていた会社に大きい苦しみにあって家庭経済的にも苦難が来ました。すると、旦那はもっと早く苦難を乗り越えるためお金を借りて知り合いと共に商店街に投資しました。

しかし、旦那が思った通りになれなかったです。結局多くの借金だけ残って旦那の会社も状況がもっと悪化され辞めなければならない状況に至りました。前が見えなかったです。毎日来る借金に責められました。仕方なく私も働きました。礼拝がある日には午前の礼拝を捧げて午後には仕事をしました。弱り目に崇り目で、不信者だった夫の兄が癌にかかって病院で闘病生活を始め、さらに、姑も老衰で病院に入院をして私の家庭の困難はとうてい言えませんでした。

“目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。 わたしの助けは来る／天地を造られた主のもとから。”（詩篇121：1,2）切ない心で神様を仰ぎながら祈りました。そして

“どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。”（フィピ信徒への手紙4：6）御言葉を信じ熱心に信仰生活をしました。

すると、まもなく全能なる神様は私が考えもしなかった方法で閉まっていたドアを開いてくださり前の道を開いてくださいました。神様の恵みと摂理で問題が解決され経済的に安定されました。神様を期待し求める聖徒に神様は一番よい方法で一番良いもので答えてくださるのを体験します。神様に感謝と栄光を捧げます。

高等学校3年生だった末子が家庭の経済状況で大学進学を辞めて陸軍の下士官で志願しました。矮小な体格だったので今回も区域の聖徒に祈りを頼んで神様に切に祈りました。息子は神様の恵みで高い競争率を勝ち抜いて試験に合格して教育訓練を無事に終えて願った後方で属して勤務するようになりました。私はイエス様を信じない夫の家族のため長い間祈りました。神様の時が来るとみんなイエス様を受け入れました。忍耐して諦めなく祈りながら伝道をする時、頑な夫の兄が牧師の訪問を迎えてイエス様を救い主で受け入れた後天国に召されました。そして、病気だった姑の魂の救いが忙しかったので家の近くの所でよく世話をして伝道したら姑も神様の救いで教会に来て決信してから二年後に平安な顔で天国に召されました。教区で葬式礼拝も導いてくださって恵みある葬式でした。

全ての過程を見ながら旦那の信仰が大きく成長しました。教会男性奉仕連合会に属して献身し主日は車奉仕もしています。熱心に教会と聖徒を支えながら旦那は職場のため神様に祈りました。そのような私達が苦難の中でも神様を委ねて礼拝中心、教会中心の生活をして昨年わたしに区域長20年勤続賞と教師15年勤続症を受ける栄光と喜びを与えてくださって、旦那にも以前よりもっと良い条件の職場で働くように摂理してくださいました。

私は時間が過ぎても信仰が弱い娘と婿が心配でした。婿が職業軍人なので様々な状況が娘の家族の信仰生活に障害になりました。それで、娘の家族のため祈りました。ところがある日には娘が交通事項に遭って病院に入院するようになりました。娘が病院に入院して治療を受ける間、私は遠い道を行き来しながら恵の中で治癒され信仰生活も熱心にするように祈りました。娘は治療をよく受けて健康な姿で退院しました。ところが娘が退院したその病院からメルス確診患者が出たとTVニュースを見てびっくりしました。なぜなら神様が治療してくださった恵で病院で予定より早く退院したからです。そうしなかったら娘と看病した家族にも伝染された可能性が大きかったからです。その後、教会でGNTCミュージカルを見てもっと信仰が弱い娘と婿の信仰が心配でした。“恵と真理教会で当会長牧師の説教を聴き教会の信仰がすばらしい方々の助けを受けながら信仰生活をしたらよいだろう、”と思って娘が住んでいるインゼの近くにも恵と真理教会が建てるように祈りました。ところが奇跡ようにインゼに教会が建てられました。私はすぐ会社に休暇を出して娘に走って行きました。ワンジュ聖殿の大教区長牧師とインゼ聖殿の伝道士が共に訪問して娘と家族のため祝福祈りをしてくださいました。私はあまりにも嬉しくて感謝して涙が止まらなかったです。

全ての家族が救われたのも感謝ですが、うちの教会で当会長牧師の恵みある説教を聴き全ての家族が信仰生活をするようになったことに感謝します。

二番目の息子が大学を卒業をして就職のため努力しながら祈っています。良い神様が息子に一番良い時によい所に導いてくださり栄光を受けることを信じます。 今まで私の家庭に大小な苦難がありましたが信仰で全てのことを乗り越えるように導いてくださり強い信仰と熱い愛を持つように恵を与えてくださった神様に感謝します。天国で享受する賞と栄光を考え私の家族がこの世で生きる間相変わらず主を愛しくださった職分に忠誠して生きます。ハレルヤ！

[信仰コラム]　幸 い な 人

”いかに幸いなことか／神に逆らう者の計らいに従って歩まず／罪ある者の道にとどまらず／傲慢な者と共に座らず...”（詩編１編）

人は誰でも”幸いな人”になることを願います。しかし、”幸いな人”とはどのような人を意味するかを明確に話すようにしてみると断定的に言うことを躊躇います。詩編の 1 編には”幸いな人”に関して明確に定義しておきました。幸いな人は誰なのか、幸いな人はどのように生活すべきで、幸いな人は何を経験するようになるのかを話しています。

1 節に幸いな人が拒んで排撃することを三つに分けて話しました。

第一は、悪い者のはかりごとに従わないと言いました。サタンは悪い者達の頭目であり、サタンの本質に属した目立つ属性は偽りを行うことです。自分の思いを叶えて欲望を満たすために罪のない人を騙して被害を与えること、真理のお言葉を歪曲して伝える人々とキリスト教を標榜（ひょうぼう）するえせ団体を庇護して活動領域を広めるようにすること、不法や非正常的な手段と方法で得た情報によって推測で他人を非難して罪を断定する行為等は偽りの父である悪いサタンのはかりごとに従う行為です。

第二は、罪人の道に立ちません。この世には数多くの宗教があって人々は多用な神に仕えているが、真実を言うと”自ら居られる創造主神様”以外の神は人間が考案した観念上の神で実在しない神です。その背後には迷惑するサタンがいます。天地をお作りなさい罪人を救いなさるイエスキリストの神様に仕えないといかに善良な人であり宗教的な人だとしても罪人の道に立っている人であります。イエスキリストの神様以外にも救いの道があると話す人も罪人の道に立っている人です。

第三は、傲慢な者の座に座りません。聖書で”傲慢な者”という用語は神様の権威と光栄を無視する行動をする者を意味します。神様の絶対的な権威のお言葉を無視して神様の光栄を横取りすることは傲慢な者の座に座る行為です。

2 節に幸いな人が積極的で能動的に行うことを話しました。

第一、エホバの律法を楽しみます。神様のお言葉は万物がどのようにそして、何で存在するのか、神様がどんな方であり人生達のために何を行われるのか、人がどのように生きるべきか、死後世界と歴史の終末に関して分かるようにしてくれます。また、驚くべきで多用な能力があってそのお言葉を信じて従うと驚くべきな能力を知るようになりなお体験することができます。第二は、幸いな人はエホバの律法を昼夜に黙想します。これは聖書を数日は集中して読んで黙想して数ヵ月は忘れて生活するのではなく毎日そして弛まずに一生の間に黙想することを意味します。

3 節に幸いな人らしく行う聖徒達に口約束された神様の恵みに関して話しました。

第一は、流れのほとりに植えられた木のようになるとしました。流れのほとりに植えられた木が流れの底に根を張って常に豊かな水を得るように神様から豊かな能力と恵みを供給されます。そうして神様に光栄を捧げ主を喜ばせる伝道の実、奉仕の実を実るようになりまた、枯渇しない望みと喜びを得るようになります。第二は、物事が栄えるとしました。ここでの栄えは問題が全然ないことを意味するのではありません。不便と苦痛を経験することがあっても神様の慰めと能力で勝つようにしてくださり艱難と苦難がとうとう福と光栄になるようにしてくださいます。

6 節に”神に従う人の道を主は知っていてくださる。神に逆らう者の道は滅びに至る”としました。”私は神に逆らう者のはかりごとに従わず、罪人の道に立たず、傲慢な者の座に座りません。私はひたすらエホバの律法を楽しみ、その律法を昼夜に黙想します。”このように告白できる人は誠に幸いな人です。このような人は神様から正しい人だと呼ばれるようになり、彼の一生は永遠な価値を持つようになるでしょう。神様が彼の生活を認定してくださるからです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

わたしは道であり真理であり命である

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

世の中で私たちが接する文と言葉の中に聖書のお言葉よりもっと貴重な意味と価値を持ったのがないし、もっと大きい影響を及ぼすのがないです。 ところで聖書の句節の中にももっと奥深くて重大な句節があります。 “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”（ヨハネによる福音書, 3 :16). “しかし、彼を受けいれた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。”（ヨハネによる福音書 1:12)、“主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。”（ローマ人への手紙 4:25). このような句節は短いがその中に福音が要約されているしそのお言葉の神秘で貴重な意味はすべて測量することができないです。 そしてそのお言葉が及ぶ影響力も同じです。
今日は “イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”（ヨハネによる福音書 14:6) と重要なお言葉を一緒に詳考します。

第一は、イエス様が “私がすなわち道であり”とおっしゃったお言葉に対してよく見ます。

道はどんな目的する所で便利で安全で早く到達する役目をします。 道が意味することは多様です。 道は方法や手段を意味して、行動の方向と指針と目標を意味して、問題を解決する方策を意味します。 “私がすなわち道であり”というイエス様のお言葉にこんな意味が皆かかっています。
イエス様は私たちが天国に行く手段と方法です。
イエス様が弟子におっしゃるのを “そして、行って、場所の用意ができたならば、またきて、あなたがたをわたしのところに迎えよう。わたしのおる所にあなたがたもおらせるためである。わたしがどこへ行くのか、その道はあなたがたにわかっている」”（ヨハネによる福音書 14:3,4) としました。 “トマスはイエスに言った、「主よ、どこへおいでになるのか、わたしたちにはわかりません。どうしてその道がわかるでしょう」” トマスがイエス様に質問しました。 イエス様が答えました。 “イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。”（ヨハネによる福音書 14:6). イエス様がおっしゃった‘私がいる所’は天国を意味します。 ‘私の父の家’ やはり天国を意味する他の表現です。
イエス様だけが天国に行く道だと明らかにしました。
イエス様だけが天国に行く道になるという証しが何ですか? 人間は生まれる時から罪の問題を持っています。
アダムの子孫である人は彼が世の中に生まれた後 何の善や悪を行ったこととは無関係ではじめから罪人です。 神様が “罪の支払う報酬は死である。”（ローマ人への手紙 6:23)という宣告を下げました。 しかし神様があがないの恵みで罪人が罪の赦しを得させました。 ところでアダムの子孫としては罪のない人が全然いないから神様がイエス様をこの世の中に送りました。 神様であるイエス様が童貞女の身に聖霊に孕胎されて人になって世の中へいらっしゃいました。イエス様は私たちの罪をあがないしようと世の中へいらっしゃった救世主です。
イエス様は父神様が決めた期限にいらっしゃって、決めた思った通りに十字架に釘付けられてあがないの死を死んだし、聖書に予言されたとおり三日ぶりに復活したしそして天に昇りなさいました。 ローマ人への手紙, 4 章 25 節に “主は、わたしたちの罪過のために死に渡され、わたしたちが義とされるために、よみがえらされたのである。”と宣布されました。 だから罪人が父の神様位に、天国に進む手段と方法はイエス様しかないです。
イエス様は聖徒が生きて行く方向と指針と目標です。 人生をまことによく暮らそうとすればイエス様を嬉しくして、イエス様が尊くなるようにして、イエス様を相変わらず愛しながら暮さなければなりません。 具体的に言わば礼拝と伝道と奉仕が生の中心でなければなりません。こんなに生きて行けば歳月を惜しむようになってイエス様の審判台で称賛と賞を受けるようになります。 またイエス様は聖徒が当面する問題に対する解決策です。 イエス様は解決策がなくて窮地に抜け方がないです。イエス様の公生涯の期間にあらゆる問題を持った人々がイエス様の助けを望んで尋ねて来ました。 イエス様は彼らをそのまま返したことがなかったです。イエス様は彼に出て来る人々が持った問題に対する解決策というのを見せてくれたのです。

二番目は、イエス様が “私が真理であり”とおっしゃったお言葉に対してよく見ます。

“真理が何なのか?” この質問は多くの人々が持っている質問です。ところで みんなの人が真理を愛して真理を探求すると言いながらも事実は真理が嫌で真理を遠く去って暮しています。その理由は真理が何なのか分からないからです。 ヨハネ福音 1 章 17 節に “律法はモーセをとおして与えられ、めぐみとまこととは、イエス・キリストをとおしてきたのである。” と記録されました。イエス様は “私が真理であり”とおっしゃいました。 イエス様によって聖書のお言葉が皆真実であるということが証明されました。 イエス様の誕生と死と復活が聖書に記録されたとおりになったからです。 真理でありイエス様のお言葉を信じて従順する人は真理の上に家を建てるようになります。 イエス様がおっしゃるのを “それで、わたしのこれらの言葉を聞いて行うものを、岩の上に自分の家を建てた賢い人に比べることができよう。雨が降り、洪水が押し寄せ、風が吹いてその家に打ちつけても、倒れることはない。岩を土台としているからである。”（マタイによる福音書 7:24,25) としました。 真理であるイエス様のお言葉を信じて従順しながら生きて行く人は世の中の人々が見るのに失敗した者のようでも成功した者です 愚かな者と同じでも実は賢い人です

三番目は、イエス様が “私が命であり”とおっしゃったお言葉に対してよく見ます。

命であるイエス様を信じて迎接した人は永生を得るようになります。 人は生まれる時から罪人で生まれて罪人の魂は神様の命から離れています その魂の実際はとがと罪で死んだ状態です。 しかし命であるイエス様を迎接すれば直ちに永生を得るようになります。 使徒ヨハネは聖霊の感動を受けて記録するのを “神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。”（ヨハネによる福音書 3:16)、“ そのあかしとは、神が永遠のいのちをわたしたちに賜わり、かつ、そのいのちが御子のうちにあるということである。御子を持つ者はいのちを持ち、神の御子を持たない者はいのちを持っていない。”（ヨハネの第一の手紙, 5 :11,12) としました。
永生は量的な概念ではなく質的な概念です。命の延長を言う時間の概念で測定することができる生命ではなく神様の永遠な現在の中で住む命です。 だからイエス様は “イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」”（ヨハネによる福音書 11:25,26) としました。 イエス様を信じて永生を得た人々は死が分からないです。 肉体の帳幕が崩れれば他人が見る時には死んだと言うが本人の魂は荷物を脱ぎ捨てたような状態になってから天使に奉じようと父の家に行くことです。 死は肉体の命が終わることに過ぎなくて永生にはなんらの変化を与えることができないです。 命であるイエス様は彼を信じる私たちの肉体まで将来復活させて永遠に住ませます。 “ここで、あなたがたに奥義を告げよう。わたしたちすべては、眠り続けるのではない。終りのラッパの響きと共に、またたく間に、一瞬にして変えられる。というのは、ラッパが響いて、死人は朽ちない者によみがえらされ、わたしたちは変えられるのである。”（コリント人への第一の手紙 15:51,52) としました。
命であるイエス様を信じて迎接した人々は日々に豊富な命の躍動を体験しながら暮すことができます。 イエス様の命が私たちの死に肉体の中に現われるによって私たちが癒やすの恵みを経験しながら生きて行くことができます。 命であるイエス様が公生涯の期間に病んだ者を治したように今日も私たちを治療します。 イエス様の命が私たちの心に現われれば心配、懸念、不安、押さえ付けられることが退いて喜び、平安、所望、胆大なことを取るようになります。
イエス様の命は私たちの生活を蘇らせます。
沈んだ家庭の雰囲気を明るく変化させます。
衰退する事業が引き立たせます。

人がこの世の中で住むうちに富貴と長寿を享受して立志伝の人物になって、著名人の録に名前を残すとしてもイエス様を信じなければ極めて可哀相な人です。 その理由はイエス様だけが道であり、真理であり、命であるからです。イエス様を信じない生活は道を失って迷う生であり、虚無と無意味の生であり、遂に破滅に至ってしまいます。“イエスは彼に言われた、「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない。” イエス様のこのお言葉が皆さん皆に喜びと感謝と幸せで充満させるお言葉になるように願いします。